

分科会 3：ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

分科会 3 報告

ファシリテーター

飯田 貴也

NPO 法人新宿環境活動ネット

理事・事務局長

／ESD 日本ユース

大貫さんにはユースとして活動する“当事者”として、神垣さんにはユースの活動を推進する“コーディネーター”として、異なる視点から話題提供していただきました。マルチステークホルダーの連携を語る時、教員や企業人などは自分で選択している立場なのに対し、ユースは年齢による自動的な肩書きです。意見交換では「ユース支援事業がきっかけで ESD の世界に飛び込んだ」などの体験談が聞かれる一方、「あえてユースというラベリングをしなくても、想いやビジョンで共感すれば年代を問わずつながれるのでは」といった意見も出ました。また、活動に際してユースと協働したり、肩書きが定まる前のユース年代のうちにつながりを構築することは「数年後のマルチステークホルダーのコミュニティをつくる種蒔きになる」「ESD という理念を軸につながれば、たとえ所属が変わってもつながりは継続する」など、ユースと共に連携を進める意義についても語りました。